

現在の活動内容(森敏一)

●団体の生い立ち

平成30年2月にプロデューサー養成講座終了後3月に同窓生を中心に声掛けし、「対話と挑戦の協働文化」「行動したい人と応援したい人のマッチング」「みらいに繋げる子どもを元気に、健康に、見守り」「全世代が活気ある地域づくり」「自己啓発で、自分を発見する、成長させてくれる場」を目的に任意団体「あいら未来会議」が発足しました。現在では同窓生以外でも主旨に賛同してもらえる参加希望者も加わり、87名の登録者がいます。

●活動動項目

1. 対話の集い……講座終了の平成30年3月の第1回設立会議から、毎月第4木曜日19:00開始を定例会として継続しこの2025年10月で92回と発足後毎月開催を継続しています。仕事の悩みややりたい事のプレゼンを聞いたり、イベント情報交換など…対話を継続しています。また諸先輩を講師に迎え研修会等も適時しています。
2. Fukufukuプロジェクト…対話の中から「お母さん達が困っている――私がやりたい」の声、小さな子供のいるお母さんの服の悩みを少しでも解消できればと始めた交換会…季節の変わり目を意識して年3回～4回計画し、この2025年9月13-14日に第25回を開催しました。連絡網が184家族を超えて、リピーターで回っています。近年マルシェ化(カフェ・小物・お菓子の店など)しています。
3. 子ども食堂…対話の名から、朝ごはんを食べてない子供がいる…がきっかけで始めました。コロナ禍でお弁当にした時期もありましたが、月1回の定例化して継続しています。途中で冷凍冷蔵コンテナの提供の支援も受け、常温から冷凍品まで食材・成果物の仕分け基地としても活動している。始めたい方へのノウハウや会場づくりも団体で支援して、現在14か所に拡大でき、それぞれが運営している。本年度はじめ、行政より市内のネットワーク化の展開で「社会福祉協議会」が「子ども食堂協議会もぐもぐ」として基本運営をすることになりました。当団体も支援団体として参画している。ただし集荷・仕分け場運営は継続しており、14団体が仕分け場を活用している。
4. DIY工事部…4年前に近くの空き家を借り改修イベントを始めたら、大工の真似事作業やDIYでのモノづくりの作業が子どもや若者との交流にとっても有効なことを実感し、プロジェクトにしました。これも月1回の定例活動日を設定し、イベントを企画し「小屋をつくろう」「床を張ろう」「親子で椅子をつくろう」「ツリーハウスを作ろう」など…出来栄ではない、自分でPDCAの回せる企画力や行動力・チームワークなどを育ててもらおう企画にしている。この空き家の敷地内に子ども食堂用の冷凍冷蔵コンテナや仕分け場を設置しています。本年度は他山間部の空き家を改修し遊歩道/カフェなどを作りその地域の交流の場にしたい若者の支援もすることになった。
5. 令和4年1月に下部組織として、NPOあいら未来会議プラスを立ち上げました。
6. 始良市の資源物集荷所委託もSDGzプロジェクトととしてで事業化し活動しています。

●これから

3年前鹿児島県始良伊佐地域振興局長より「地域づくり活動」で表彰を受けました。これまでの友軍団体の支援やご指導があって現在の活動ができていると考えており感謝に堪えません。昨年より地域の草刈りや剪定が出来ない高齢者が増え、支援をしている。数台の機械化でゆくゆくはプロジェクトとして立ち上げる予定です。また、3番目の空き家を借り地域の集会や習いごとなど、第3の居場所としてシェルター活用も含め福祉部門も広がりつつあります。私達は主旨を大切に、若者とシニアの良きバランスの取れたグループとして「出来る人が出来る時にできる事を」をモットーに、焦らずゆるい集まりを基本に据え、ゆっくりと無理をせず対話の場・地域づくりを進めていきます。「継続は力なり」で進めます。